

早稲田社会学会ニュース 第48号

2016年10月31日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第68回早稲田社会学会大会の報告
2. 2016年度早稲田社会学会総会の報告
3. 2016年度研究例会の報告
4. 2015年度研究助成の報告
5. 2016年度研究助成について
6. 入退会者のお知らせ
7. 会則改正のお知らせ
8. 学会費納入のお願い

1. 第 68 回早稲田社会学会大会の報告

第 68 回早稲田社会学会大会は、2016 年 7 月 9 日（土）に早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 1 会議室において開催されました。報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般報告

司会者： 大黒屋 貴稔（聖カタリナ大学）

報告者： 佐藤 一海（早稲田大学文学研究科）

「拠り所」概念の社会学的研究の可能性

——生活世界における多義性・多元性と不安との関係

堀 真悟（BOULANGE D316）

暴力、応答責任、非暴力

——ジュディス・バトラーにおける「非暴力の倫理」を手がかりとして

大貫 恵佳（駒沢女子大学）

M. フーコーにおける〈同一者〉をめぐって

シンポジウム 分析単位としてのコミュニティ——ソーシャル・キャピタル論から問う

報告者： 稲葉 陽二（日本大学）

ソーシャル・キャピタルと QOL——全国郵送法調査からの知見

高木 大資（東京大学大学院）

ソーシャル・キャピタル研究における“場所”と“空間”をどのように考えるか

埴淵 知哉（中京大学）

ソーシャル・キャピタルをめぐる地理的スケールと歴史的文脈の問題

討論者： 玉野 和志（首都大学東京）・小藪 明生（早稲田大学）

司会者： 田所 承己（帝京大学）・麦倉 泰子（関東学院大学）

シンポジウム報告

2016 年 7 月 9 日に開催された早稲田社会学会大会シンポジウムは、テーマ「分析単位としてのコミュニティ——ソーシャル・キャピタル論から問う」の下、社会学以外を専門とされるお三方を招いて議論をおこなった。今期（2015-2017 年度）の研究活動委員会の共通テーマは「社会学的知の可能性」であるが、今年はその二回目のシンポジウムにあたり、領域横断的に近年研究が進んでいる「ソーシャル・キャピタル」概念を改めて検討し、とくにコミュニティという観点から社会学におけるその可能性と課題を探求した。

一人目の登壇者の稲葉陽二氏の報告「ソーシャル・キャピタルと QOL——全国郵送法調査からの知見」では、まずソーシャル・キャピタル概念の定義や概念整理、さらにその研究上の意義やアウトカムとの関係などに関する検討がおこなわれた。さらに 2013 年全国調査データのマルチレベル分析等に基づき、個人レベルとは異なるコミュニティ（市町村）レベルのソーシャル・キャピタルによる影響に関する検討がおこなわれた。

二人目の登壇者の高木大資氏の報告「ソーシャル・キャピタル研究における“場所”と“空間”をどのように考えるか」では、ソーシャル・キャピタル研究において「コミュニティ」を捉えるための「場所」の視点が、地域相関研究とマルチレベルモデルにおいて検討された。またそれらの手法の問題点をクリアする方法として、boundary を設けない「空間モデル」の有用性が提示された。

三人目の登壇者の埴淵知哉氏の報告「ソーシャル・キャピタルをめぐる地理的スケールと歴史的文脈の問題」では、ソーシャル・キャピタル測定の問題を「地域」という観点から考察した。まず地理的スケールの観点から地域レベルの SC 計測におけるいくつかの問題点が指摘された。さらに、地域の文脈的経路として「地域の歴史」によるソーシャル・キャピタルへの影響をどのように捉えるべきか、具体的な事例を通じて検討された。

討論者の玉野和志氏の議論では、近年隆盛しているソーシャル・キャピタル研究に対して、従来から社会関

係やコミュニティを研究対象としてきた社会学の立場が確認され、また同じく討論者の小藪明生氏の議論では、ソーシャル・キャピタル研究と社会学研究の関係性がさまざまな観点から検討された。また、フロアからもソーシャル・キャピタル概念の意義や社会的「地域」概念とのつながりなどについて議論が行われた。全体として、アウトカムを想定するソーシャル・キャピタル研究のプラクティカルな姿勢と、コミュニティへの“思い入れ”の深い社会的視点との間には議論の端々でやや齟齬が見られたが、他方で社会学に対する外部領域からの期待も小さくないことが確認され、こうした期待にいかに応えるかが今後の社会学の方向を規定する分岐点になると思われた。

(帝京大学 田所 承己)

2. 2016 年度早稲田社会学会総会の報告

2016 年 7 月 9 日 (土) 17:15~18:00 まで早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 1 会議室において、2016 年度早稲田社会学会総会が開催されました。

1. 議長選出

常数 英昭 氏が選出されました。

2. 議事

2-1 報告事項

- 1) 理事会活動報告 (竹中庶務担当理事)
- 2) 研究活動委員会活動報告 (西野研究活動担当理事)
- 3) 編集委員会活動報告 (草柳編集担当理事)
- 4) 2016 年度研究助成の申請と採択について (竹中庶務担当理事)

2-2 審議事項

- 1) 2015 年度決算案の件 (杉本会計担当理事)
※同封の決算報告をご参照ください。
- 2) 会計監査報告 (大久保監事)
- 3) 2016 年度予算の件 (杉本会計担当理事)
※同封の決算報告をご参照ください。
- 4) 会則改正について
※詳しくは、本ニュースの 7 をご覧ください。

3. 2016 年度研究例会の報告

第 38 回研究例会が、以下のとおり開催されました。

タイトル：社会学におけるソーシャル・キャピタル／ソーシャル・ネットワーク概念の再検討

日時：2016 年 5 月 21 日 (土) 14:00~16:40

会場：早稲田大学文学部 (戸山キャンパス) 33 号館 16 階第 10 会議室

司会者：田所承己 (帝京大学) ・ 麦倉泰子 (関東学院大学)

報告者および題目：

原田 謙 (実践女子大学)

都市社会学とソーシャル・キャピタル研究の交差——地域の文脈効果を再考する

加藤篤志 (茨城大学)

「ネットワーク」の意味を問い直す——「若者の友人関係」を手がかりに

研究例会報告

2016年5月21日に開催された早稲田社会学会研究例会は「社会学におけるソーシャル・キャピタル／ソーシャル・ネットワーク概念の再検討」というテーマの下、原田謙氏（実践女子大学）と加藤篤志氏（茨城大学）のお二人の登壇者による報告がなされ、また一般参加者を含めた質疑応答等の議論がおこなわれた。

一人目の登壇者の原田謙氏の報告「都市社会学とソーシャル・キャピタル研究の交差——地域の文脈効果を再考する」では、地域の文脈効果という観点からソーシャル・キャピタル研究の意義と課題が検討された。まず都市社会学において地域の文脈効果に注目する視点を系譜的に遡ったうえで、日本の都市社会学におけるソーシャル・ネットワークに対する都市効果の解明作業における蓄積とその課題に関する検討がおこなわれた。そのうえで地域の文脈効果に着目する研究群に関して、地域環境の測定方法と「集団的効力感」概念を軸とする議論がおこなわれた。

二人目の登壇者の加藤篤志氏の報告『『ネットワーク』の意味を問い直す——『若者の友人関係』を手がかりに』では、2012年に実施された社会調査のデータに基づき、友人関係のネットワークがもつ意味について検討がおこなわれた。まず、現代日本の若者の友人関係に関する既存の研究や議論の整理がおこなわれ、「若者にとって友人とは何か」という問いが立てられた。そして、2012年の調査データの分析を通じて、現代社会の流動性や選択性の増大を背景とする友人関係の変化や多様性の内実が具体的に検討され、友人概念の再検討の必要性が提唱された。

研究例会ということもあり、また登壇者のお二人が社会学畑の研究者ということもあり、ソーシャル・ネットワーク研究に関する基本的な概念定義や方法論を含めて率直な質疑応答がフロアともなされて、同様のテーマのシンポジウムに向けての足固めが十分におこなわれた。

（帝京大学 田所 承己）

4. 2015年度研究助成の報告

申請者がいなかったため、2015年度の研究助成はおこなわれませんでした。

5. 2016年度研究助成について

2016年度の研究助成の募集に対して1件の申請があり、2016年7月9日の理事会で審査した結果、以下のとおり助成が決定されました。

- 1) 研究題目： 時間のファンクショナルリズム——見かけの現在から機能的現在へ
研究代表者： 飯田 卓（早稲田大学・非常勤）
助成額： 15万円

6. 入退会者のお知らせ

理事会において以下2名の入会が承認されました。(以下、敬称略)

2016年5月21日理事会	佐藤 一海 (早稲田大学文学研究科)
2016年5月21日理事会	樋田 有一郎 (早稲田大学教育学研究科)

理事会において以下の6名の退会が承認されました。(以下、敬称略)

2016年5月21日理事会	秋山 憲治
2016年5月21日理事会	小松 栄一
2016年5月21日理事会	庄内 正文
2016年5月21日理事会	伊藤 聡洋
2016年5月21日理事会	佐藤 純子
2016年5月21日理事会	袈岩 晶

7. 会則改正のお知らせ

このたび、第68回早稲田社会学会大会の総会において、会員17名より以下の改正案が提案され、慎重な審議の結果、原案に会則内での用語の統一を施した上で、挙手による採決が行われ、その結果、総会出席者20名中19名の賛成が得られたので、会則の「第七条」を以下のように改正することが可決・承認されました。

・改正の理由

これまで、ハラスメント等に対する対処と手続きについて明記されていなかったため、「第二章 会員」の「第七条」を改正する。

【現行】

第七条 会員にしてその義務を怠り、または本会の名誉を著しく傷つけたものは、理事会の議を経て総会の決議により除名する
二 総会での除名決議は総会出席者の三分の二以上の賛成を必要とする

【改正】

第七条 会員にしてその義務を怠り、または他の会員に対するハラスメント等の行為により本会への参与を妨げ、もしくは本会の名誉を著しく傷つけ、または本会の業務の遂行を著しく妨げたものは、理事会の議により戒告、資格の停止、退会または除名の処分をすることができる
二 本会が何らかの処分を行う場合、被処分者に弁明の機会を与えるものとする
三 退会及び除名は、総会出席者の三分の二以上の同意により効力が生ずる

8. 学会費納入のお願い

本年度の学会費が未納の方、および過年度分の未納がある方宛てに、振り込み用紙（お名前と該当の未納年度を印字しております）を同封いたします。早急にお振り込みくださいますようお願い申し上げます。なお、本状と入れ違いになりました節はご容赦ください。

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

（年会費：一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円）

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、通信欄にその旨を明記ください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします！

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上